

# 人生ハンド仏句

第154号

H. 27. 1. 1

(毎月1日発行)



## 年頭所感

任職 谷川寛俊

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

昨年暮れに開催されました恒例の冬至水行祭も、昼の部に続いて、夜の部においてはミズレ交じりの暴風雨の中、参詣者の皆様に感動を与えて頂きました。県内外から集まった約八十名の参加者一同、勇猛精進されたその熱い気持ちと勇氣に心から

の敬意を捧げたいと思います。特に今年二回目となる孫の天花（七歳）と、同級生の籠瀬柊音（かごせしゅうと）君（七歳）、そして最高齢の高田富美子さん（七十八歳）におかれては、七回連続の参加となり、これまた心からの賛辞を贈ります。更に、数日前から諸準備等、縁の下の力持ちの存在でお手伝い頂いた大勢のスタッフの方々にも「お陰様」という文字通りの言葉で心からお礼を申し上げます。必ずや諸天のご加護（お守り）があるものと信じます。

さて過日「お正月にお墓参りをしてはいけない」と聞いた事がありますが、本当ですか？という質問を受けました。

結論から申しますと、「お墓参りをしてはいけない」という事はありません。むしろ、お正月にこそお墓にお参りをし、ご先祖様に年始のご挨拶をして頂きたいと思えます。

本来お正月というものは、ご先祖様

「人生ハンド仏句」と打ち込んで頂けば、ホームページにつながります。

編集・発行  
玉蓮山 真成 寺  
編集部 谷川久仁子  
TEL・FAX 0765-22-2268  
携帯 080-3744-2523  
こちらの番号でもお寺につながります。

をお迎える魂祭（たままつり）の行事でした。正月は大晦日の日暮れと共に始まり、家中の者が寝ずに、静かに威儀を正し、歳神（としがみ）様と、ご先祖様をお迎える行事です。ですから子供でも、大晦日は早く寝てはいけないと言われたものです。また、おせち料理は、もともと「節供（せつぐ）」と言い、神様に供える食べ物の事で、ご先祖様や歳神様と一緒に、大晦日に頂く物でした。元旦のお雑煮は、供え物のお下がりを家族一同で頂く物なのです。

このように日本古来の行事を見ても、正月にお墓にお参りしてはいけないというのは、おかしい話です。死を穢れ（けがれ）と捉えて、「正月に縁起の悪い事を持ち込みたくない」という意識があるのかもしれませんが、年頭に当たり、私達にとって一番大切な仏様、そしてご先祖様に、いの一番にご挨拶をするというのは当然な事です。また

気持ちの良いお正月を迎えるため、年末には家の大掃除と同様にご先祖様のお墓も念入りに清め、今年一年お守りいただいた事に感謝しましょう。そしてお正月にお参りして「今年も頑張ります。お見守り下さい」と、ご祈願すれば、清々しい気分です。新しい年の第一歩を踏み出せるはずですので、お正月の行事に、家族そろってお参り下さい。

